北九州 EVENTワイド TOPICS

倒れてからでも遅くない (上)

第137回患者塾が1月22日、福岡県水巻町の遠賀中間医師会館で開かれた。前半は「倒れてからでも遅くない」をテーマに、病気になった時にリハビリがどうやって進められていくかなどについて、専門の医師らから詳しい解説があった。

リハビリ

西野さん　リハビリは「もう一度適合させる」という意味で、必ずしもすべてが昔の状態に戻るということではありません。今までできていたことができなくなったら一生遠慮して暮らさないといけないと考えるかもしれませんが、どこかで弱ってきた場合にはもう一度生活を作り直し、常生活」がリハビリの目標です。

△68歳の女性▽　夫が糖尿病などの病気を持ち、タバコもお酒も飲むなど不規則な生活をしているのでそのうちに倒れると確信しています。最近よく聞く「早期リハビリ」ってどこでもやってもらえるんですか。

西野さん　早期リハビリには①ひどくならないように早期からリハビリをしようというもの②病気になった後のすぐに始めるもの―の2種類あります。急性期の病院で早期リハビリをやっています。医療保険の範囲では早期リハビリは大体1カ月間と決まっています。では1カ月で完全に良くなるかというとそうではないので、その時のために回復期のリハビリがあります。

小野村さん　早期リハビリから回復期リハビリへのバトンタッチは、うまくいっているのでしょうか。

伊藤さん　大きな病院では、治療を終えて次の病院にバトンタッチする間、急性期の早期リハビリだけでなく、ある段階までの回復期のリハビリにも取り組み、次の病院で継続して取り組んでもらう仕組みがここ数年進んできています。

目標は「自立した日常」
早期から回復期に連携

西野憲史さん

回復の度合いに応じ
専門スタッフは3種類

小野村さん　例えば脳こうそくになって右側が完全にマヒした場合、どんなリハビリをするのですか。

西野さん　まずマヒした部分がどれだけ動くのか状態を確認します。動かないと血液の流れが悪くなるので、リハビリのスタッフが助けて動かします。自分で動かせるところは自分で動かしてもらい、体を安定させるために役に立つ装具を使ったり、平行棒で捕まって歩く練習をしたり、ベッドから車いすに乗り移る練習をするなど血圧や心機能など全身状態を確認しながら回復の度合いによって段々とリハビリを進めていきます。

小野村さん　リハビリにかかわるスタッフにはどういう人たちがいるのですか。

西野さん　日本では、リハビリには▽運動療法などによって日常生活能力の回復を図る理学療法士▽食事をしたり歯を磨くなどの日常生活動作の回復を図る作業療法士▽言葉がうまく出なくなった人に訓練したり、のみ込みがうまくいかない人を訓練する言語聴覚士――の3者がかかわっています。

記者の一言

整骨院の女性スタッフから、よく言われる。「ストレッチですよ。ストレッチ。ちゃんとやってください」と。「分かっているよ」と、のど元まで出かかった言葉をのみ込む。ついに出た「五十肩」の治療で通っていた時のことだ。中学生の部活で痛めて以来の「腰痛」とは、だましだまし付き合ってきたが、「五十肩」は初めて。肩甲骨周辺のインナーマッスルを強化する腕振りの運動を教わり、バス待ちの時などにやっている。周囲には奇異に映っているだろうが、人の目を気にしている場合ではない。おかげで痛みは薄れてきた。

【御手洗恭二】

質問は事務局へ
〒807-0111
福岡県芦屋町
白浜町2の10
「おのむら医院」内
電話093・222・1234
FAX093・222・1235

患者塾
医療の疑問にやさしく答える

◇出席された方々
西野　憲史さん＝西野病院院長（北九州市）
伊藤　重彦さん＝北九州市立八幡病院副院長（外科）
平田　敬治さん＝福岡山王病院外科部長（福岡市）
津田文史朗さん＝つだ小児科アレルギー科医院院長（福岡県水巻町）
◇司会
小野村健太郎さん＝おのむら医院院長（福岡県芦屋町、内科・小児科）

おのむら版 患者語・医者語辞典

退院
（英語　be discharged）

患者語：完全に元気になった状態で病院から出るのが退院。重症の状態で入院した場合は、1年を超える長期の入院となる場合も珍しくない。

医者語：急性期の病院では、命にかかわらない状態になると退院となる場合がほとんど。欧米での平均在院日数は2週間と言われる。急性期の病院は、適切な診断をして治療をしたあと経過を見る段階になると、その役割を終える。慢性期の病院にも長くは入院できないことが多くなってきた。重症でない場合は、退院して介護施設に移ることになるが、介護施設も医療を必要とする患者は経営的観点から受け入れづらい。こうして重症ではないが、入院が必要な患者は、ふらふらしながら受け入れ先を探し転院をくりかえすことになる。

◇　◇

日本では、06年に入院に関する制度が一変、長期に入院する程診療報酬が減る仕組みになりました。現在、90日を目安として、退院を迫られるのが実態です。こうした中で病院の医療連携室や医療相談室の果たす役割が大きくなっています。